

報告書

氏名	齋藤 健也
研修名	明治150周年記念「世界青年の船」
主催団体名	内閣府
研修国	オーストラリア、パラオ、ソロモン諸島
研修期間	1月19日 ～ 3月2日 (43日間)
研修目的	グローバル化著しい次世代のリーダーを担う人材の育成
研修内容	<p>1月19日～1月27日 国内研修 1月28日～3月 1日 船上、寄港地活動 2月 4日 パラオ 2月 8日～2月 9日 ダーウィン 2月17日～2月19日 ブリスベン 2月21日 ソロモン諸島 3月 2日 帰国後研修</p> <ul style="list-style-type: none">・寄港地では主にディスカッションコースごとに企業訪問や視察、文化紹介を行う。・船上ではコースディスカッション、クラブアクティビティー、ナショナルプレゼンテーション（各国の文化紹介）委員会活動などが行われる。
研修の成果	<p>まず、これから一生続くであろう人脈を日本中、世界中に得られました。本事業の特徴として国籍混合の3人1組のキャビンが与えられ、1か月プライベートなしなどの環境に置かれます。最初は自分の英語力からその環境に慣れずに苦しい思いをすることもありました。しかし、寝食を共にするうちに些細なことなどでもきっかけに話しかけ、ボディランゲージや紙に書いて伝えるなどの手段でコミュニケーションを取っていくうちに打ち解け、一生の親友と呼べる存在を世界中に得ました。この経験は将来自分が青年海外協力隊などの活動に生きるでしょう。また、海外の方々を日本に受け入れる仕事に携わる際に非常に役立つと思われます。</p> <p>次に、自分に目標であったリーダーシップの養成について、事業期間中、私は積極的にできる限り人前に立つように心がけました。クラブアクティビティーの書道のオーガナイザーを務め、海外参加青年だけではなく日本人参加青年、管理部員の方々にも好評をいただきました。その点で普段はあまりない人前に立つ経験をできたことは大きな成果でした。一方で、リーダーシップというものは人によって変わっていてもよい。完璧な人間、そしてリーダーは存在しない。そのリーダーの不完全な部分を後ろから埋めていくものひとつの立派なリーダーシップのあり方であると感じました。</p>

	<p>ナショナルプレゼンテーション（各国の文化紹介）の活動において、私は合唱とソーラン節のチームに所属していました。そこで私は専門知識や経験がない全力でリーダーをサポートすることに徹しました。その結果、発表は成功しそれぞれのチームリーダーから大きな感謝の言葉をもらうことができました。私のもともと得意事項である「縁の下の力持ち」の力を発揮できたことに大きな喜びを得ることができました。また、いつも自身に溢れてセミナーなどで発表する海外青年の姿から、多くの人と接する際に自信をもつことの大切さを学びました。以上のことから、自分らしさを抑えることなく、新しいチャレンジをしつつ自分の良さを生かしていくことがひとつのリーダーシップの形であると気づくことができました。</p> <p>また、福島県の原子力発電所の現状やそれに伴う問題について海外参加青年と話し合うことができました。海外参加青年は日本参加青年より難しい選考を突破して参加しているため自分自身の意見や考えをかなりはっきりともっています。話しているうちに彼らの勢いに圧倒されることもありましたが、なんとか英語で現状を説明し、自分の意見を伝えることで彼から新しいことを知ることができてよかったと言ってもらえました。しかし、英語力など自分の伝え方に拙さが多く、個人的にも完全に満足はできなかったので、Facebook などインターネットを通し発信するなどこの活動はこれからも続けていきたいと強く思っています。</p> <p>最後に、私は今まで JICA 二本松訓練所でのふくしまグローバルセミナーなどを通し国際協力に大きな興味をもっていたので本事業では国際協力のディスカッションコースに所属しており、難民問題などに大きな知見を得ることができました。パレスチナ在住のファシリテーターの方とも時間外にもお話を聞きに行き、今でも連絡を取っています。帰国後にガザ地区で爆撃のニュースがあった際には心を痛めました。それは今までにはなかった感情です。目を背けたくなることではありますが、Facebook などを通して多くの人に情報を発信するように心がけています。そのようなニュースをより身近に感じるようになったのは本事業に参加したために他ならないと言えます。</p>
今後の取組	<p>今回得られた人脈を生かし、平和構築などを目的とした NGO、NPO などを創立したいと考えています。今はまだ構想段階ですが、10人ほどの同じ意思をもつ参加青年とグループ通話などで話し合っています。また、どのタイミングになるかは未定ですが以前から参加しようと思っていた青年海外協力隊への思いがいつそう強くなりました。今回訪れたソロモン諸島の現地の人たちの様子を見て、特に環境問題や医療などの支援が必要であると強く感じました。</p> <p>将来、本事業にナショナルリーダー（既参加青年が務める各国のリーダー）として再び参加したいと強く思っています。そのためには更なる自己研鑽が必要不可欠なので、主に英語力の養成に努めます。そのために海外インターンなどに応募することも検討しています。そこで今回はあまりできなかった福島の文化紹介などもしたいと思っています。</p> <p>今回国際協力のディスカッションコースを通し、実際にファシリテーターの方を通してガザ地区の方と知り合い、その方に直接、私たちの現状を日本の人たちに伝え続けてほしいと言っておりましたので、そこで学んだことをインターネットを通して日本語でも英語でも一般の方々に発信し続けたいと思っています。</p>

